

編集後記：この編集後記を書いている2020年7月も九州をはじめ、日本のあちこちで梅雨前線による大雨災害が発生した。死者・行方不明は11県85名、住家の被害は15,000棟以上に達している(7月16日現在)。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方にお見舞い申し上げます。気象庁は7月3日以降の一連の大雨を「令和2年7月豪雨」と命名した。

一度に多くの死者を出したところに、熊本県球磨村の特別養護老人ホーム「千寿園」がある。ここでは入所者70名のうち、14名の方が亡くなった。ニュース記事によると、4時50分に大雨特別警報が出た中、当直職員5名と付近の住民10名弱で入所者を1階から2階に垂直避難させていた。しかし40名を運びあげたところで、建屋に水が入ってきて全員を助け上げることはできなかつたらしい。球磨川で氾濫が発生したのは大雨特別警報の発表40分後の5時半頃である。

災害の直後に国土地理院から球磨川水系の浸水推定

図が公表されたが、事前に想定されていたハザードマップとよく一致している。この老人ホームは洪水想定区域内に建っているため、年2回の避難訓練を行うなど、万一の水害に対する備えは想定していたはずである。事前の予測が過少だったとの議論もあるが、事前にレベル4やレベル5の情報が出され全くの不意打ちでは無かつたはずである。訓練時に、どの程度の規模の災害を想定するかがとても重要であることが実感させられた。

国は2020年6月に「改正都市計画法」を成立させ、2年以内に施行する。その中では、災害危険区域などにおける社会福祉施設の開発の原則禁止を盛り込んでいる。しかしながら、今般の被災状況の甚大さを考えれば、既存施設も安全な場所に移転させるような政策誘導も必要であろう。

(平松信昭)